

第4回三次市行財政改革推進審議委員会会議要旨

平成25年11月12日

15:00 から 17:00

市役所東館2階会議室

- 出席：橋本会長，廣中委員，小川委員，新藤委員，元吉委員，山根委員
- 事務局：元廣部長，新田課長，奥野主任

(注) 第4回審議委員会では、配布資料5-1「三次市 市民と行政の行財政改革のためのメッセージ（検討用たたき台）」の確認を行いました。

今回の要旨は、資料5-1について、いただいた意見を項目毎に列記しています。

【枠内】

- 「実行指針」という文言について。「指針」は外部から指し示すもの。「方針」は自らの意思によるもの。「三次市行財政改革の活動方針」としてはどうか。
- 「行動」を強調するためには、「実行力ある組織づくり」を「行動力ある組織づくり」にしてはどうか。
- 官民関わらず、どの組織もすくみ足になって一歩が踏み出せないことはある。「行動する」というメッセージは大切。
- 「市職員は、職員であると同時に三次市民であることを忘れずに、一緒に取り組んでいこう」という一文を入れたい。このメッセージは市職員に対する部分もある。

【行財政改革推進審議委員会からのメッセージ】

- 行政は、「市民の意見を聞いたら後は行政がやる」というのでなく市民と行政が一緒に考え行動してほしい。
- 「市民とともに考え・・・」という記載について。市民の話を聞くだけではなく、「行政が市民と考え、行動する」ニュアンスを出したい。
- 市職員は、三次市民の一員として、三次市の将来に関心を持って。他人事ではない。

【1（1）市民との共感力】

- 「本当に困っている人を助ける」これが本当の政治。落とせない。
- もっと簡潔に、箇条書きにできないか。広島弁が入る等、やわらかな表現でも良いのではないか。わかりやすい表記で。
- 発言された背景もあるのですべてを箇条書きにはできないが、できるだけ完結・わかりやすくする。
- 65歳以上を高齢者と言うことはぜひ改めたい。「元気な高齢者」はそのままの表記がわかりやすい。
- 「市民組織と協働の地域づくり」は、「協働の地域づくり」で良いのでは。

- 市職員は、市職員と市民両方の目線を持ち、組織の中では自分の中の「市民目線」を活かしてほしい。

【１（２）変化への決断力】

- 「例えばこんな」の項目数が多いが、いずれも大事なことなので多くても良い。
- 行政は、変化に対する決断をしっかりと対応していく。市民も、もう元には戻れないことを理解する必要がある。
- 経費削減は重要。他市では、ジェネリック医薬品の利用促進で、数千万円から億単位の医療費削減を達成している。経費削減の工夫が必要。

【１（３）機敏な行動力】

- 「職員の行動を引き出す意識改革と活動評価」。人事評価も含めて、がんばっている人はきちんと評価してあげてほしい。
- 合併から１０年経過したが、未だに一つの市になっていない感がある。
- 三次市は中心部に一極集中しており、支所地域は停滞している。
- 市町村合併が必要であったことは理解できるが、支所が地域と市民との懸け橋ができていない。まずは支所職員が住民と話をすること。
- かつて合併前、役場職員はほとんどが地元の人間だったので、特別な努力をしなくても地域に溶け込めたとし、地域のことをよく理解していた。今はそうではないので、市職員は、地域を理解し、地域に出ていく努力と工夫が必要になっている。
- 市職員は、地域へ出てしっかりと対話し、地域の本音が聞けるように。
- 今は、市職員は地域を知らなくても困らない。地域を知らないと困る仕組みを作る必要がある。表面的なつきあいでは本質的な情報は入らない。
- 行政は、単にイベント・行事への職員参加を進めるだけでなく、計画策定等も含めた行政の地域参加を進めるのが良い。
- 住民側にも行政を受け入れる体制づくりが必要になる。
- 地域に詳しい人が地域と行政のつなぎ役になれる。
- 「市がやってくれない」と不満をいう市民がいるが、市民も変わらなければいけない。行政と地域の間をつなぐ中間支援組織があれば、行政に対する市民の反発も少ないかもしれない。
- 「地域を知り、地域を愛する職員」しっかりと地域の自慢大会ができるくらい地域を好きになってほしい。
- 職域・企業の地域参加も大切。企業も市民である。
- 以前に比べて、市職員は地域イベントに参加するようになった。

【２ これらを実現するために求められるもの】

- やるべきことをやらなかったときの評価について、企業では未実施があれば棚卸をし、リカバリー策を出して下方修正を食い止める。
- （公務員が）怠慢で仕事のチャンスを逃さないようにするためには、日産のゴーン氏のように、トップとコミットメント（約束）をしておき、やったかやらなかった

かを確認することが必要ではないか。

- トップからの職員への思いが非常に大事。長期存続しようとする、トップが職員に危機感を持たせている。
- 危機感もだが、「使命感」「責任感」「達成感」を持つべきである。
- 行政の場合は、職員個人の危機感よりも、地域の将来に対する危機感を持ってほしい（三次市はこのままで大丈夫かという危機感）。

以上